

【学校教育目標】

徳・知・体の調和が取れ、未来を切り開く力をもった生徒の育成

これからの学校には、「教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること（新学習指導要領）」が求められます。

これからの社会（Society 5.0）の実現のためには、今までとは違った価値観や能力を身につけ、伝統的な教育に加えて未来を開き、社会を支える力を本校の生徒には伸ばしたいと考えております。すなわち、ICT技能の伸長や非認知能力の獲得です。試験や数値で表すことが難しい力ですが、本校の生徒は高い可能性が備わっているものと感じています。このことから、新しい学校教育目標を策定しました。

経営の重点

- （１）認め、ほめて伸ばす指導
- ①生徒のがんばり、地道な努力を見逃さない観察力
 - ②職員が情報を共有し、多くの職員でほめていく組織力
 - ③生徒の活躍の場を意図的に設定する計画力
→【生徒が企画・運営実行・検証・改善】
- （２）わかる授業の実践
- ①タブレット等ＩＣＴ機器の有効活用による指導の工夫
 - ②生徒の思考を引き出し、表現力を高める指導方法の工夫改善
※少人数グループによる学びの活性化（４人組）
 - ③ライフステージに合わせた研修の充実
（相互授業参観、若年層研修等を通して切磋琢磨）
- （３）特別支援教育の充実
- ①特別支援（さくら）学級を中心とした特別支援教育の充実と連携の強化
 - ②生徒理解を深め、よりわかりやすく丁寧な指導、支援
 - ③合理的配慮の履行。個別の指導計画、個別の教育支援計画の見直し、改善
- （４）生徒指導の充実
- ①思いやりのある豊かな心、正しい判断力、正義を通す勇気の醸成
 - ②不登校生徒への支援体制の充実
 - ③個に応じたきめ細かな指導の展開（ステップアップルームの充実）
 - ④道徳教育、人権教育の充実、いじめを許さない心の醸成
 - ⑤教育相談を生かした積極的生徒指導の推進
- （５）学年・学級経営の充実
- ①生徒と向き合う時間を大切にする職員
教育相談・じぶんログ（生活ノート）を活用
早期発見、早期対応、情報共有（先手必勝、迷う前に報告と相談）
 - ②集団生活と規律を大切にする環境づくり
いじめ、暴力行為等への毅然とした指導、素早く粘り強い指導
 - ③学年、学級、分掌を越えた全職員の連携
共通理解による指導を 素早く、粘り強く、温かい指導
- （６）地域とともにある学校の実現～コミュニティースクール
- ①情報発信の充実～学校便り、学年便り、ホームページの充実
 - ②地域人材の活用～キャリア学習、各教科との連携
 - ③地域組織との連携～青少協、社福協、幼保小高との連携
- （７）道徳教育の充実
- ①学校の教育活動全体を通しての道徳教育の充実
 - ②アセスメント調査を活用した上での「考え、議論する道徳」の展開
 - ③道徳性と日常生活
- （８）ユネスコスクールとしての活動の充実
- ①手帳の活用～自発的自主的なボランティア活動への参加
 - ②SDGs教育の充実～SDGs教育の視点を持った教育活動

目指す生徒像

- 玉造中生徒として夢と誇りをもち、「玉造中でよかった」と心から言える生徒
- 思いやりの心もち、「誰かの役に立つ行い」を進んで実行する生徒
- 「当たり前五項目」の実現を目指す生徒（生徒総会で決定）
 - （１）挨拶・返事を意識する
 - （２）学習に集中して取り組む
 - （３）無言で清掃に取り組む
 - （４）合唱活動を活発にする
 - （５）団結力を高める（リーダーとフォロワー、助け合い、教え合い等）
 - 自主自律（立）を重んじ、自らの生活を自らの力で改善できる生徒

目指す学校像

- 安全で安心した学校生活が送れ、居場所があり、互いの良さを認め合える学校
- さわやかな挨拶のできる生徒が溢れている学校
- 美しく整った環境に包まれている学校
- 生徒と教師が信頼し合っている学校
- 計画的な人材育成が行われている学校
- 家庭、地域と連携して生徒を育てている学校

目指す教職員像

- （１）教育公務員としての人間性
 - ・言葉遣いや立ち居振る舞い
 - ・日々研鑽・研修
 - ・先生と呼ばれる者として
 - （２）学習指導の力
 - （３）生徒指導の力
 - （４）特別な支援を必要とする生徒への対応（特別支援教育の力）
 - （５）ICTや情報・教育データの利活用
- ※目指すものではないが不祥事の根絶
- コンプライアンス意識、人権意識の高揚
 - 様々なハラスメントに対する気配り～時代とともに日々変化

本年度の最重点課題

人材育成（生徒、教職員、保護者・PTA、地域人材）

- ・常に「育成」の観点を忘れずに対人関係を持つこと。
「できないことが当たり前」を意識して生徒や教職員、保護者に接する。
- ・コーチング理論による自己決定・行動への支援

不登校支援の充実

- ・特命不登校支援を中心として、一人一人にチームで対応。
対応を具体化して文字や図で示し、全職員で共有する。

基礎学力の向上

- ・4人組グループの活用で生徒を主人公とした授業展開。深い学びへの支援。
- ・少人数指導、個別指導の明確化。
課題を抱える生徒に対して「カルテ」を作成して記録をしつつ改善を図る。
改善策を職員、生徒と保護者に共有、共通理解。
学力上位者へのサポートを疎かにしない。

特別支援教育の充実

- ・個別の指導計画・支援計画の共有
- ・特別な配慮を希望する生徒への柔軟な対応

- 生徒指導
- 研究研修・学習指導
- 生徒会指導
- 学級・学年経営